



ちょっとそこまで～お散歩日和(名言編)～



時間をつぶすと言っている間に… ブウシコー



時間をつぶすと言っている間に、
ひっそりと時間につぶされてしまう。

……ディオン・ブウシコー

この警句の真意は今一つ捉えられないのですが、何がなく時間つぶしのつもりでやっていたら、思わず夢中になってしまったという意味なのでしょう。でも、それでは箴言としての重みが全くなってしまいます。だとすれば、もう1つの印象である「ぼんやりしていたら、後々とんでもないことになるぞ。」と、今というこの一瞬を大事にしろと訴えかけているのでしょう。確かに、人生全てに目的意識がないと不幸になるという考えは真つ当な考えです。



特に、学校という社会はそれが顕著で、やたらと目標を設定するのが好きです。学校目標・学年目標・学級目標・生活の月目標・週目標・給食から保健から図書から…、教室を見回すと目標掲示物だらけで、結局どれ1つ心に残らないというのは、ある意味シニカルでさえあります。

いつもいつも何かをしなければならない、したいという目的意識、あるいは張り合いを持ち続けなくては人間は生きていけないのだとしたら、私達は死ぬまで永久に満たされない存在としての宿命を負うことになるということになります。ましてや、ブラブラしているだけの人間は生きる価値がない、みたいな考え方は、ひどく疲れる人生観です。だからこそ、この言葉に一矢報いたいと思わずにはられません。

時間は私達が創造した概念でしかないんだ。今更そんなものに追い立てられることはない。少なくとも自分のペースで生きていこう!…とね。

と言いつつ、その一方で、自動車を運転している時、目の前の横断歩道をゆっくりと歩く歩行者を見ながら苛立つ自分もいることも事実です。当人たちは全然急いでいないし、焦らせるようなことでもないのに、「速く歩け! 待っている、こっちのことも考えろ!」とキレかかるあれって何なのでしょう。やっぱりどこか矛盾しています。



ところで、「無人島シミュレーション」という心理療法があるそうです。どういうものなのか全然中身を知りませんが、恐らく、一昔前に流行ったクイズに、「無人島に何か持っていくとしたら何を持って行くか?」

「無人島に誰かと2人きりになったらどうするか?」などというのがありますが、この種の設問に対してあれこれ考えながら治療していくのだろうなと想像します。

しかし、このシミュレーション・クイズ、もっと日常的な思考訓練として使っても良いのではないかなと思います。私たちは「ゼロからの疑問」を持つことがとても苦手です。例えば、身の回りの現象や出来事への素朴な疑問、「どうして男の子はズボンをはいて、女の子はスカートをはくの?」「どうして北極の海に棲む魚は凍らないの?」「接着剤のフタはどうしてくっつかないの?」「伊豆諸島の有人島は九つあるのに、なぜ伊豆七島?」「仕事ができない人に限って質問に来ないのはなぜ?」…。それが当たり前だと勝手に判断して疑問すら感じないということは、結構身の回りに溢れているものです。中には、本から得た知識らしいものを得意気に披露する人もいますが、ほとんどは「どうしてそんなことが不思議なの? どうでも良いじゃないの、別に。」といった反応で、正直がっかりすることが多いものです。

昨今、中高生の間で「ディベート」を取り入れた教育活動を実践している所が増えてきましたが、この「シミュレーション・クイズ」は時と場所を選ばず誰もが楽しめそうです。いかにもドラえもんで興味を持って想像力を膨らませられるように思うからです。

以前、巷で大ヒットした漫画に「沈黙の艦隊」というのがあります。かわぐちかいじ氏の作品で、自衛隊の最新鋭潜水艦の反乱を通して、軍事問題はもとより安全保障や外交問題・政治のあり方など、日頃からタブー視してきた諸問題を鋭い視点で描いている劇画です。その中のひとコマに、こういうのがありました。



あるテレビの討論番組で、司会者が4人の日本の首相候補者に質問を出します。

「船の事故で10人の生存者がボートで漂流しています。ところが、その中の1人が致死性の伝染病を発病してしまいます。放置すれば当然残りの9人も感染し全滅の可能性があります。あなたは、このボートのリーダーです。さて、どうしますか？」

というのですが、さて皆さんだったらどうしますか？ここでの4人の登場人物の答えは次の通りでした。

A氏：自分が感染した当人であるならば、リーダーを別に決め、決定に従う。自分以外が感染者ならば、すみやかに感染者をボートから下ろし、一人でも多くの生命を守る。

B氏：全員に知らせ、全員による話し合いによる解決を求め、全員に従うという了解を得たうえで、多数決の決議をおこなう。

C氏：いかなる極限状況であれ、少数を殺すことはできない。ならば、全員、死すべきである。そして、自分が感染者ならば、迷うことなく海に飛び込み死ぬ。

D氏：私は人間であることを辞めない、10人全員が助かる方法を考え続ける。

誰の考えを指示支持しますか？いや、それ以上に、こういう選択肢を用意したシミュレーションも面白いものだと感じ始められたのではないのでしょうか。では、こういうのは？

「授業参観の時、担任の先生から、あなたの子供が授業中に他のことをして遊んで困ると注意されます。後で、我が子に問いただしてみると、他の子も一緒に遊んでいたのに、自分だけが叱られたと答えます。それを聞いた、あなたの反応や如何に？」

- ①自分の子供だけを叱るのは先生が間違っていると言い、子供を叱らない。
- ②可愛そうにと、子供に同情する。
- ③授業中に遊んでいたのは事実なので叱る。

いずれも答えがあるわけじゃないし、だからこそ自由な発想を楽しめるのだと思います。さらに言えば、何よりそこに本音が隠されているから面白いのではないかとも思うのです。

最後に、巻頭の言葉は原文では次のようになっています。「kill」を使っているのが面白いと思います。

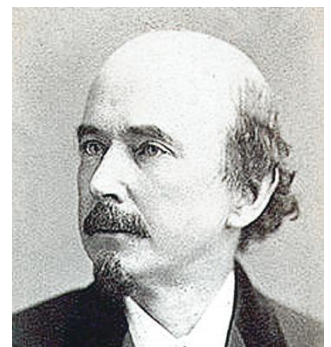
Men talk of killing time, while time quietly kills them.

同様に「kill」を使った名言に、バーナード・ショーのものがあります。

A learned man is an idler who kills time with study.

(学者とは、貴重な時間を研究でつぶしてしまう怠け者のことだ。)

なお、ブウシコーは19世紀を代表する、アイルランドの俳優であり、メロドラマで有名な劇作家です。



(Dion Boucicault)

(終)